

極楽苑 広報誌 かけはし



【ロゴコンセプト】

心という漢字を用いて、福祉を介して人と人との
寄り添いつながることを表現しています。

冬号

2026.1 発行 (NO.144)

発行／ 社会福祉法人 高針福祉会
特別養護老人ホーム極楽苑
デイサービスセンター極楽苑
極楽苑ショートステイ
極楽苑居宅介護支援事業所

〒465-0064 名古屋市名東区大針1丁目265番地
TEL 052-701-0707 FAX 052-704-4448
E-MAIL gokurakuen@rapid.ocn.ne.jp



～ CONTENTS ～

- ・ 新年のご挨拶
- ・ 食事だより
- ・ 趣味の作品展
- ・ 餅つき大会
- ・ 第2回紅白のど自慢大会
- ・ 【特集】技能五輪全国大会
- ・ お知らせ

冬の郡上八幡城

ホームページ

極楽苑

検索

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は、格別のご支援とご協力を賜り、
心より御礼申し上げます。

当法人は、昨年(2022年)の12月18日をもちまして、創立45周年を迎えました。

これまで支えてくださった皆様に、改めて深く感謝申し上げます。

45年前にスタートした福祉事業は、時代の変化とともに一步一步着実に歩みを重ねてまいりました。その積み重ねが、今日の「信頼される組織」として基盤を築いてきたものと確信しております。

現代社会は、技術革新、価値観の多様化、働き方や社会構造の変化など、10年後を見通すことが難しいほどのスピードで変化を続けています。安定した法人経営を基盤としつつ、変化に適応できる柔軟さとスピード感、さらには、AIやSNSが生み出す新たな時代への適応も今後ますます重要になるものと考えています。このような時代だからこそ、確かな信頼と連携を礎に、未来へと着実につなげてまいります。

午年は、粘り強く前進し、力を蓄えながら成長する年と言われています。変化を恐れず、新たな挑戦にも積極的に取り組む一年にしていきたいと思っております。本年も、私たちの理念である「ふれあい・思いやり・感謝の心」を大切にしながら、社会に貢献できる活動を一層推進してまいります。

皆様にとりましても、本年が健康で実り多き一年となりますことを心より祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

令和八年元旦

社会福祉法人 高針福祉会

理事長 加藤 重雄

食事だより

「幸せを支える栄養」をテーマに、季節感のあるお食事を提供しています。クリスマスとお正月には、特別メニューをご用意して、お祝いムードを盛り上げました。

行事食予定

- 2月2日(月)
節分そば
- 3月3日(火)
ちらし寿司
- 4月上旬
桜ちらし寿司



12月24日(水) クリスマスメニュー

- ローストチキン
- スパニッシュオムレツ
- じゃが芋のクリーム煮
- 塩麴キャロットラペ
- コンソメスープ
- ライス



1月1日(木) おせち料理

- メバルの塩焼き
- 厚焼き玉子
- 八幡巻・黒豆
- 結び昆布
- 大根なます
- お吸物・お赤飯
- 練り切り
- お屠蘇

第4回趣味の作品展

毎年好評の「趣味の作品展」を開催しました。第4回を迎えた今回も、11月19日(水)～12月24日(水)まで期間を延長し、多くの作品を展示いたしました。会場は、人物画や風景画など様々なジャンルの絵画や、丁寧に作られた手芸作品、趣のある陶芸作品など、ご入居者、ご家族、そして職員による素敵な作品の数々で、とても華やかな雰囲気となりました。ご来場の皆様からも多くの感動のお言葉と「極楽の樹」へもメッセージを寄せていただきました。皆様、本当にありがとうございました。



今年もたくさんの
メッセージで満開
「極楽の樹」



餅つき大会



12月10日(水)、極楽保育園で開催された餅つき大会に、極楽苑のご入居者も参加しました。会場には「よいしょー」という元気な掛け声が響き渡り、杵と臼を使った本格的な餅つきに、子どもたちは目を輝かせて大盛り上がり。その様子を間近で見守るご入居者からは、自然と笑顔がこぼれ、会場全体が温かな雰囲気包まれるひとときとなりました。世代を超えたふれあいは、ご入居者にとって心が和らぐ大切な時間です。これからも、世代間交流を大切にしながら、ふれあい、思いやりのある関係づくりを続けてまいります。



第2回 極楽苑 紅白のど自慢大会



12月20日(土) 第2回のど自慢大会を開催しました。ご入居者・ご家族・職員・特定技能実習生からなる総勢12組の出演者が自慢の歌声を披露し、聴衆を大いに魅了しました。当日は、ご家族はじめ、ボランティア団体 ライラックの会の皆様も応援に来てくださり、ペンライト、手作りうちわを片手に、声援を送っていらっしゃいました。また、極楽保育園の園児さんのサプライズ参加もあり、かわいらしい歌声とダンスで会場を和ませてくださいました。音楽を通じて、世代を超えた感動と笑顔あふれるすばらしいイベントとなりました。



▲個人優勝
親子での共演でした



▲華やかな衣装が
素敵でした



▲初のご参加
圧巻の歌声でした



▲今年は白組が
優勝しました

～第63回 技能五輪全国大会エキシビションを振り返る～ 介護の技術で未来を切り拓く

2025年10月18日(土)・19日(日)、愛知県国際展示場で開催された『第63回技能五輪全国大会』に【介護】がエキシビション（公式記録としない公開演技）として追加されました。この歴史的な舞台に、全国老人福祉施設協議会を代表して出場したのが、特別養護老人ホーム極楽苑の介護ユニットリーダーです。

日本の介護の質と専門性を全国に示すこの挑戦は、当苑にとっても、介護の未来にとっても大きな一歩となりました。



技能五輪全国大会とは？

技能五輪全国大会は、昭和23年に第1回大会が開催されました。戦後復興期において、日本の産業を支える「技能」の重要性が強く認識され、若い技能者の育成と社会的評価の向上を目的に創設されたのが始まりです。原則23歳以下の若い技能者が、日頃培ってきた技術や知識を競い合う日本最大級の技能競技大会です。製造業や建設業をはじめとする、多様な分野で開催され、「技能の尊さ」「ものづくり・人づくりの重要性」を社会に発信してきました。この大会は、単なる競技ではなく、次世代の担い手を育成し、社会を支える技術の価値を可視化する場でもあります。

なぜ？介護が正式競技になるのか。

高齢化が急速に進む日本において、介護の質は社会全体の課題となっています。介護は「思いやり」だけでなく、専門的な知識、判断力、身体技術、コミュニケーション力を必要とする高度な技能です。こうした背景から、介護技術を正式な「技能」として評価し、若い世代にその魅力を伝えるため、技能五輪への導入が決定されました。2025年はエキシビション競技として実施され、2026年から正式競技となる予定です。

競技課題の内容

入浴介助



脱衣室で脱衣介助から始まり、浴室内のシャワーチェアまで歩行を介助。その後、シャワーで洗身のみを行い、再び脱衣室の椅子まで歩行介助して着衣を整える。

食事介助



食事の準備を整えた後、利用者の姿勢を保持し、摂取量や嚥下の様子を観察しながら食事介助。食後は口腔ケアのため、洗面台の椅子まで杖による歩行介助で移動する。

排泄介助

スライディングボードを使用して、車いすに移乗し、トイレまで車いす移動を行う。トイレ内ではカーテンを閉め、利用者のプライバシーへの配慮も評価対象となる。

～競技を通して、介護技能への関心と理解を～

競技当日の様子

会場には、全国各地から集まった若き介護人材と関係者の熱気があふれていました。

愛知県の大村知事も来場され、競技の様子を熱心に視察されるとともに、出場者への温かい激励の言葉をかけておられました。

介護の競技には、各課題に対して一つひとつの動作への安全性と正確さ、そして「その人を思う心」が求められます。出場者は、緊張感の満ちる会場の中、落ち着いた表情で利用者役と向き合い、限られた時間の中でも、尊厳を守ろうとする姿勢や丁寧な声掛けを心がけており、介護が人と人をつなぐ専門職であることを強く印象づけました。



技能五輪への想い

このたび、極楽苑を代表して技能五輪全国大会に出場させていただき、大変貴重な経験をすることができました。競技への参加は、改めて基礎を見直すことにつながり、そこから多くの気づきを得るなど、とても有意義な時間となりました。当日は、高校や専門学校の学生の他、一般の来場者も多く、介護のやりがいや大切さ、また難しさについても知っていただける良い機会になったのではないかと思います。

他の出場者の皆さんのさまざまなケアの工夫や考え方に触れ、学び合い、意見交換ができたことも、大きな刺激となりました。今回の大会で得た経験や学びを、今後の業務に活かし、極楽苑のより良いケアにつなげていきたいと考えています。

介護ユニットリーダー 山本悠喜



ふれあい
思いやり
感謝の心

私たちはふれあい・思いやり
感謝の心で生きがいを提供し
地域社会への貢献を目指します。

お知らせ

創立45周年を迎えました

この度、法人創立45周年を記念して、ホームページに特設ページを掲載いたしました。理事長の法人設立への想いをはじめ、歴史や取り組み、また、長年歩みを共にしてきた職員からのメッセージなどをお伝えする内容となっております。ぜひご一読ください。



極楽保育園の園庭でドローンを使って集合写真を撮りました

特設ページはこちら

介護の仕事「出前講座」に参画しました

「出前講座」は、介護の仕事に関心をもってもらうための取り組みとして、名古屋市が企画する中学生向けの体験学習です。今回参加したのは、名古屋市立上社中学校2年の学生さん2名です。普段、高齢者と話をする機会の少ない学生さんにとって、デイサービスのご利用者から何う昔話の数々や、孫のように温かく話しかけてもらったことが、とても新鮮で貴重に思える体験となったようです。



体験学習に入る前のオリエンテーションの様子

第62回民間社会福祉事業功労者表彰式

この度、11月7日(金)に開催された「第62回民間社会福祉事業功労者表彰式」において、長年にわたる社会福祉事業への貢献が認められ、当苑職員3名(苑長・看護主任・介護主任)が感謝状を拝受いたしました。表彰式では、民間社会福祉事業施設職員を代表して、苑長 岩田佳奈子が登壇し、広沢市長より感謝状を授与されました。今後も地域に根差した福祉の実践に取り組んでまいります。



行事予定

- ◆2月3日(火) 節分
- ◆3月下旬～4月下旬 お花見
- ◆第2木曜日：えんカフェごくらく(認知症カフェ)
2月12日・3月12日 午後1時30分～3時30分



※ この広報に掲載した個人情報は、ご本人もしくはご家族の同意を得て掲載しています。